

# 小学校 6年 道徳

考える  
感じる

話す・聞く  
書く 読む

育成したい  
国語力

複数の理由により、自らの考え方を効果的に述べる。  
話し手の意図を考えながら、推論や予測、考え方の根拠を聞き取る。  
書くことによって自らの考えを練り、思考の深まりを感じ取る。  
背景や状況と関連付け、書き手の意図を読み取るとともに書き手に共感しながら、感動をもって読む。

## 主題名

### 自分をはぐくむ

## 資料名

### 「自分をつくる楽しさ」(京のこども 明日へのとびら) 1-(6) 個性の伸長

## 指導内容

## 本時の目標

自分の特性や課題を見つめ、よりよい自分をはぐくもうと努力する態度を育てる。

## 本時の流れ

### 導入

衣笠祥雄さんのプロフィールを知る(クイズ形式)

「自分をつくる」という言葉からイメージすることを発表する

本時の学習内容の把握

### 展開

#### 前段

資料を読んで話し合う

- ・衣笠さんはどのようにして自分をつくってきたのか話し合う。
- ・「人がやるから、野球はおもしろい」の意味を考える。
- ・「自分をどこまで好きになることができるか」ということについて考える。

#### 後段

ワークシートを活用して、自分自身を見つめる

- ・自分のよいところについて考える。
- ・「作り上げたい自分」について考える。
- ・自分のよいところについて友達から教えてもらう。

### 終末

本時の振り返りをする

### 視点①

感じる力

道徳の時間の読み物資料は、教師の読み聞かせにより行われることが多いものです。資料の世界へ子どもたちの想像力をかき立て、問題意識を高めるために読み聞かせの方法を工夫するとともに、資料の提示を多様に工夫することも大切です。

### 視点②

考える力

道徳の時間での話し合いでは、多様な考え方に触れ、内面化を図ることが大切です。意見を出し合う、まとめる、比較する、決めるなどの目的に応じた話し合いを工夫することが大切です。必要に応じて考えを揺さぶったり、助言を与えることで、論理的に伝える力を育てるとともに多様な考えを深めることができます。

### 視点③

考える力

道徳の時間において「書くこと」は、自分を振り返るための大切な活動です。自分と向き合う時間を十分に確保するとともに、書いたことを基に友達と交流し、互いの考えに触れることが大切です。

### 国語力育成の視点

目的に応じて、自分の考えをもって相手に分かるように話したり、相手の話の要点を聞いたりする力(「考える力」)は、話し合うことによって学習を深める道徳の時間には不可欠なものです。  
また、「書くこと」によって、自分自身とじっくり向き合い、考えを深めたり、成長を実感したりできるように工夫することが大切です。国語力の育成は、道徳的心情や道徳的判断力、実践意欲、態度などの道徳性を養う上で大切な役割を果たしています。

### ワークシート

## 自分をつくる楽しさ

作り上げたい自分

友達から

自分のよいところ